

# 高等学校における LTD 話し合い学習法の研究

## - 音楽史の授業実践と課題についての考察 -

青山学院大学系属浦和ルーテル学院小中高等学校 非常勤講師  
東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程 1 年  
中村 仁

### 要 旨

本研究は、協同学習の手法の一つである LTD 話し合い学習法を高等学校の授業で取り入れた実践研究である。授業では高等学校専門学科における教科「音楽」の科目「音楽史」を扱うことで、生徒各自が音楽の歴史についての理解を深めるとともに、学習意欲向上が見込まれると考えた。実践方法として教育実習校である大分県立芸術緑丘高等学校音楽科の研究授業において LTD 話し合い学習法を取り入れ、授業中の生徒の反応やそこから辿り着いた回答と、授業後の記録用紙に基づいて分析を行った。授業前に生徒は学習課題に取り組んだが、ここで分からなかったことや一人で解決できなかったことなど、LTD 話し合い学習法を通してグループで解決することができ、生徒自身の体験をもとに楽曲の特徴を理解することが可能となった。また、授業内は生徒の活動が中心となるため、教師は LTD 話し合い学習法に向けた教材研究に十分な時間をかけることが出来る。一方、LTD 話し合い学習法は本来大学での実践が好ましく、高等学校での実践は 1 時間内で完結する短縮版となることから、全課題を取り扱うことは不可能であるため、事前課題及び授業後に補足情報の共有が必要であるという課題も明らかとなった。

#### キーワード

LTD 話し合い学習法, 主体的・対話的で深い学び

### 1. はじめに

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むこと「社会に開かれた教育課程の実現を目指すため、高等学校において 2022 年度入学生から新学習指導要領による指導が実施される。それに伴い、「主体的・対話的で深い学び (= アクティブ・ラーニング )」の視点からの学習過程の改善が求められることになり、生徒に「生きる力」を育てるために何ができるようになるのかを明確にする必要がある。

新学習指導要領「音楽史」の目標は「音楽史の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、

専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す」とされており、この目標を重点的に指導する場合、現在学校現場で行われている授業を大幅に見直す必要があると思われる。そこで対話的な授業による音楽の理解を深めるため、協同学習の手法の一つである LTD 話し合い学習法を音楽史の授業実践として取り入れた。

筆者が 2018 年に発表した研究論文<sup>1</sup>では知識構成型ジグソー法の実践について研究したが、ここでは生徒のコミュニケーション能力向上が期待された反面、教材研究及び資料の読解能力向上を図るための全体計画の見直しが必要であるという課題が明らかになったことから、これらの改善が見込まれる指導法として今回 LTD 話し合い学習法の実践を試みた。

以上のことから本研究では、高等学校における LTD 話し合い学習法の授業実践と課題についての考察をするものである。

## 2. LTD 話し合い学習法

LTD (Learning Through Discussion) 話し合い学習法とは、主体的で能動的な学びを実現する、協同を基盤とした理想的で実践的な学習法であり<sup>2</sup>、久留米大学文学部教授の安永悟が積極的に推奨してきた技法である。

LTD とは予習 (個別学習) とミーティング (共同学習) で構成されている。予習では学習課題について一人で取り組み、予習ノートを作成する。その後のミーティングでは、予習ノートを手がかりに 4,5 名程度の小グループでの話し合いを通じて、学習課題の理解を深めることができる。よって LTD の効果を得るためには、グループでの対話だけでなく、事前の予習が不可欠となるため、生徒には予習を必ず行うよう繰り返しアナウンスする必要がある。また本来 LTD は大学の講義で導入されている学習法であることから、高等学校などで実践する際には短縮版 LTD で行うことが推奨されている。しかし短縮版 LTD は 1 時間の授業内で完結することから、より一層予習の徹底が必要とされるため、高等学校における LTD の実践例は極めて少ない。

### 2.1 短縮版 LTD の予習方法

生徒は学習課題を繰り返し読み、特に重要だと思う箇所やわからない言葉、確認しておきたいことについてチェックをつける (St.1 課題文の把握)。次にチェックをつけた言葉の意味を辞書や専門書、インターネットなどを利用して調べ、ノートに整理する (St.2 語彙の理解)。再度課題を読んで理解した後、課題を見ずにその主張を自分の言葉でノートに書く (St.3/4 主張の理解)。ここまでが学習課題を理解する過程となっている。

学習課題を理解した後、今度は課題について、これまで勉強してきたことや資料などを参考に、関連する点を見つけてノートに書き (St.5 知識の統合)。さらには自己に関連づけて振り返る (St.6 知識の適用)。

最後に、課題について自分の意見を論理的思考かつ建設的にまとめることで予習完了となる (St.7 課題の評価)。

---

<sup>1</sup> 「音楽史の授業における知識構成型ジグソー法の研究 - 協同学習の有効性と課題についての考察 -」中村 仁 (2019)

<sup>2</sup> 『大学教育と情報 2011 年度 No.3 (通巻 136 号)』公益社団法人 私立大学情報教育協会, 2011, p.2

## 2.1 短縮版 LTD のミーティング方法

事前に 4,5 名のグループを組み、まずは役割分担を決め、雰囲気づくりをする (St.1 導入)。役割は以下の通りである。

リーダー：活動の司会と全体発表

記録係：グループ用紙に話し合われた内容を記録

時間係：活動を円滑に進めるよう、ストップウォッチなどで時間を管理

調査係 (2 名)：インターネットなどを利用して調査

役割決定後、予習ノートを手がかりに学習課題の言葉の意味を話し合い、把握する (St.2 語彙の理解)。次に話し合いを通して、課題の主張をより深く理解する (St.3/4 主張の理解)。ここまでが学習課題の理解する過程となっている。

学習課題をグループで理解した後、予習ノートを手がかりに関連づけの提示を行い、その適切性や妥当性を話し合う。また話し合った内容に、自分に関わることについて触れ、理解を深める (St.5 知識の統合 + St.6 知識の適用)。

最後に、話し合いを通して、課題文に対する意見を論理的思考かつ建設的にまとめ (St.7 課題の評価)、話し合い全体としての評価を行う (St.8 活動の評価)。

## 3. 研究目的

本研究は、教科「音楽」のうち、科目「音楽史」における授業において LTD 話し合い学習法を導入した際の授業実践と課題について考察することを目的とする。

## 4. 研究方法

本研究では、2022 年度から新しく導入される高等学校学習指導要領・音楽科「音楽史」に基づき、諸外国の音楽史を学習するために 3 時間扱いの授業内容として立案され、ベートーヴェンが作曲したオペラ《フィデリオ》を題材として取り扱った。

1 時間目ではベートーヴェンの楽曲について関心を持ち、鑑賞することを目標に、ベートーヴェンの生涯とオペラ《フィデリオ》のあらすじと登場人物の性格について、当時の時代背景を含めて学習した後、《フィデリオ》序曲を鑑賞して、気づいたことや感じたことをワークシートに記入するものとした。

2 時間目では前時の復習とオペラ《フィデリオ》のアリアや重唱部の楽曲分析から登場人物の心情を読み取り、気づいたことや分かったことをノートに記入した後、15 分間のグループ討論を行うものとした。また、ここでのグループ討論は LTD 話し合い学習法のための準備及びグループ分けを行うための生徒観察も含むため、教師は注意して机間巡視を行わなければならない。授業の最後には週末課題として、次回取り扱う LTD 話し合い学習法をスムーズに行うための課題を生徒に課した (資料 1)。前述のとおり、LTD 話し合い学習法には課題を通して収束的な学習と拡散的な学習を事前に十分に行うことが必須である。また今回の予習ノート及び 3 時間目の活動時に使用するグループ用紙は、千代田区立麹町中学校長の工藤勇一が提案した「フレームワーク」を参考とした<sup>3</sup>。

3 時間目ではオペラ《フィデリオ》のあらすじや成立史について軽く振り返った後、LTD 話し合

<sup>3</sup> 『学校の「当たり前」をやめた。 - 生徒も教師も変わる! 公立名門中学校長の改革 -』工藤勇一, 時事通信社, 2018

い学習法を用いて、事前課題を基にベートーヴェンが作曲した2つの序曲（《レオノーレ》序曲第3番と《フィデリオ》序曲）について考察するものとした。評価基準として「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点からなる。

本研究論文はLTD話し合い学習法を実施した3時間目の授業を分析するものとする。研究方法として、大分県立芸術緑丘高等学校の3年生（音楽科・35名）を対象に50分授業を行った後、LTD話し合い学習法に基づく記録用紙（資料2）の記入を通して、授業実践とその課題を考察した。また、授業内はパソコンやスマートフォンなどの使用を許可することにより、インターネット活用を通じたグループ活動も試みた。

#### 4.1 教室内配置と準備について

教室は効果的に話し合いを行えるよう、通常の音楽授業教室ではなく被服室で行った。教壇の前に設置したスクリーン及び書画カメラが見えるよう机のセッティングを行った後、机上にはグループ用紙と提出した予習ノート（資料3）、学習課題（資料4）、記録用紙を各机に置いた。

準備するものについては以下の通りである。

教師：パソコン、プロジェクター、書画カメラ、授業プリント、グループ用紙、観賞用CD、オペラ《フィデリオ》ヴォーカルスコア

生徒：教科書（音楽史、世界史）、ノート、筆記用具、週末課題（予習ノート）

#### 4.2 活動内容について

本時の展開は以下の通りである。

前時の復習（約3分）

本時の目標確認とグループ活動の説明（約5分）

LTD話し合い学習法

St.1 導入（約2分）

St.2 語彙の理解（約3分）

St.3/4 主張の理解（約7分）

St.5 知識の統合 + St.6 知識の適用（約10分）

St.7 課題の評価（約3分）

St.8 活動の評価（約2分）

発表（約12分）

まとめ（約3分）

#### 4.3 記録用紙について

本研究では授業後にLTD話し合い学習法に基づいた記録用紙を記入することで、その有効性と問題点について明らかにするものである。

## 5. 研究結果と考察

### 5.1 活動内容

LTD話し合い学習法を取り入れた活動内容についての分析を行なった。

#### 5.1.1 前時の復習及び本時の目標確認とグループ活動の説明

本授業ではグループ活動前に前時の復習として、ベートーヴェンのオペラ《フィデリオ》のあらすじの確認（救済オペラ）と成立史について触れた後、本時の目標（「2つの序曲（レオノーレ）序曲第3番・《フィデリオ》序曲）について、話し合いを通して理解を深めよう。」）とLTD話し合い学習法について記したものをスクリーンに接続して説明を行った。また使用したプレゼンテーションアプリはKeynoteである。

生徒全員が活動に向けた予習を行っていたため、ここでの質問等はなかった。

#### 5.1.2 導入，語彙の理解，主張の理解

事前に役割分担を決めていたため、ここでは簡単な自己紹介とルールの確認をグループ毎で行われた後、語彙及び主張の理解へと進んだ。ここでは多くのグループで、《レオノーレ》序曲第3番と《フィデリオ》序曲の違いについての話し合いが活発的に行われた。また机間巡視を行い、話し合いの進んでいないグループには助言を与えるなどの対応をすることで課題の理解へ導けるよう誘導を行なった。

#### 5.1.3 知識の統合，知識の適用

学習課題をグループで理解した後、予習ノートを手がかりに話し合いが行われたが、ここでは知識の統合に時間がかかり、自己との関連づけに困惑する生徒が多く見られた。そのため教師の助言を求めるグループは多く、全グループを回るのに時間を要した。一方順調に話し合いが行われているグループは、より専門的な内容にも触れていた。ここでは知識の統合と適用で約10分時間を取ったが、もう少し長く時間をとった方が良かったといえる。

#### 5.1.4 課題の評価，活動の評価

ここでは課題と活動の評価が行われた。この時点で多くのグループが結論を出していたが、約5分の時間だったため、話し合いの意見をグループ用紙にまとめるには少々短いと感じる生徒が多く見られた。しかし「フレームワーク」の形式を参考とした予習ノート及びグループ用紙は、限られた時間の中でもまとめやすいという意見も挙がった。

#### 5.1.5 発表とまとめ

グループによる発表では、1グループ1分30秒以内で行われた。グループ用紙を書画カメラに映すことで、リーダーによる発表を聞きながらグループで話し合った記録を全員見ることができる点はよかったが、操作などに時間がかかってしまったため、改善が必要である。

まとめではグループによる発表に対して教師がレスポンスする形をとった。

### 5.2 記録用紙

ここではLTD話し合い学習法に基づく記録用紙に書かれた集計結果から、明らかになったことや改善すべき点などを挙げる。

#### 事前調査

1. わたしは事前準備（予習ノート）ができている。...60.5%
2. わたしは今回の課題に興味・関心をもっている。...68.1%
3. わたしは課題の内容を理解できている。...55.4%
4. わたしは今日の話し合いに参加したい。...80.3%
5. わたしは今日の話し合いに貢献できると思う。...59.4%
6. 今日の話し合いでは、グループ全体として、各ステップをうまく行えると思う。...70.1%

## 事後調査

1. 今日の話し合いでは、グループ全体として各ステップを上手くできた。...75.7%
2. 今日の話し合いを通して、課題に対するわたし個人の理解が深まった。...82.1%
3. 今回の課題に対するわたしの興味・関心が高まった。...87.4%
4. このグループで、また話し合いを行いたい。...80.3%

## 感想等

- ・予習があったおかげで、話し合いもスムーズにできました。
- ・自分が調べたことについてもっと詳しいことや違う角度から調査があって面白かった。
- ・とても良い話し合いができました。楽しく音楽史の勉強ができました。
- ・話し合いの時間がもう少し欲しかったです。
- ・大学の授業を50分に練り込んだみたいで大変でした。

調査の結果、グループ活動前の状態では話し合いに参加したい割合は高いのに対し、課題内容を理解している割合が低いことから、予習の時点ではあまり学習課題の内容を把握できていないことが分かる。これに対し、グループ活動後、個人の理解や興味・関心の割合が高くなったことから、話し合いを通して様々な意見を伺うことで個人の持つ知識のアップデートが可能となることが分かった。一方で、話し合いの時間が短かった分、学習課題をもう少し易しくした方がよかったのではないかという意見も挙がった。

## 5.3 考察

LTD 話し合い学習法を導入することで本研究では以下のことが考えられる。

- (1) 音楽を通して主体的・対話的な活動を行う目的としては十分である。
- (2) 予習型学習課題を通して思考力・判断力を養うことができる。
- (3) 他者に自分の意見を伝えようとする行動が見られる。
- (4) 学習課題は生徒に合わせて工夫しなければならない。

(1) については、従来の音楽史の授業方法よりも生徒の知識増加が見込まれ、さらにその分野についての関心が高まることが期待できるといえる。そしてそこで得た知識をグループで共有し合い、主体的・対話的な活動を行うことができる。

(2) については、辞書や専門書、インターネットなどを通じて、これまで知らなかった情報を得るとともに、学習課題に対する自己の考えや意見をまとめることができる。また予習学習の定着も期待でき、今後学習方法がわからないという生徒が減少することが見込まれる。

(3) については、これまでのグループ活動に積極的でなかった生徒でも、各々が役割を担うことで、話し合いに参加して必ず他者に自分の意見を伝えなければならないことから、その責任を果たそうとする意欲が見られるとともに、他者に伝えることの難しさを知ることで、コミュニケーション力の向上が期待できるといえる。

(4) については、高等学校で導入する LTD 話し合い学習法は短縮版である場合がほとんどであることから、時間内で話し合える内容の学習課題の選択と、事前課題及び授業後に補足情報の共有が必要であるという課題も明らかとなった。

## 6. 結論

### 6.1 LTD 話し合い学習法による音楽史の授業実践

LTD 話し合い学習法では生徒が主体的かつ対話的な活動を音楽史の授業に取り入れることにより、グループ活動だけでなく予習型課題学習を通じて、生徒一人一人に新たな探究心を養う機会を与えることにもなるといえる。また授業内の ICT 活用やインターネット等の利用により、他者の意見を参考にしながら、自分で調べる力を身に付けることも可能となる。

次に従来の音楽史における学習方法では一方的な授業を受けることから、生徒は主に知識のインプットが重視されてきたが、LTD 話し合い学習法でのグループ活動を通じて、個人が学んできたものの発表（知識のアウトプット）と他者の意見を参考に、新たな回答を導く（知識のアップデート）が可能となることが見込まれる。また各々に発言の機会を与えることでコミュニケーション能力の向上も期待できる。

### 6.2 LTD 話し合い学習法による音楽史の授業課題

「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業法として LTD 話し合い学習法を導入することによって、生徒はより深い学びの実現が可能となるが、予習が不可欠な上、限られた時間内での活動となることから、生徒に合った事前課題の提示及び課題範囲の見直しと授業後の補足説明を十分に行う必要があると考えられる。

## 7. おわりに

今後「音楽史」以外の授業にも LTD 話し合い学習法を取り入れることで、さらなる問題点の浮上が予想されるが、常に教材研究と生徒の様子を観察した上で授業をデザインしていく必要があるといえる。

今回は芸術系の高等学校での授業実践となったが、今後は筆者が浦和ルーテル学院小中高等学校で担当している音楽の授業において LTD 話し合い学習法を取り入れ、児童生徒たちが主体的となって多種多様な音楽に触れることのできるような授業実践を目指していきたい。

## 参考文献

- 1) 安永悟 著（2006）『実践・LTD 話し合い学習法』ナカニシヤ出版。
- 2) J. レイボウ 編著（1996）『討論で学習を深めるには・LTD 話し合い学習法』ナカニシヤ出版。
- 3) 安永悟・須藤文 著（2014）『LTD 話し合い学習法』ナカニシヤ出版。
- 4) 井勝久喜（2010）「学ぶ力を身につける LTD 話し合い学習法の実践」第 6 回高梁学園学術研究コンファレンスにおける報告。
- 5) 安永悟（2011）「LTD 話し合い学習法」『大学教育と情報 2011 年度 No.3（通巻 136 号）』公益社団法人 私立大学情報教育協会，p.2-7。
- 6) 中村仁（2019）「音楽史の授業における知識構成型ジグソー法の研究 - 協調学習の有効性と課題についての考察 -」音楽文化の創造（CMC）Vol.07。
- 7) 工藤勇一（2018）『学校の「当たり前」をやめた。 - 生徒も教師も変わる！公立名門中学校長の改革 -』時事通信社。
- 8) 杉江修治 編著（2016）『協同学習がつくるアクティブ・ラーニング』明治図書出版。